

# 香取遺産

Vol.112

岡生涯学習課

☎(50)1224

府馬の安産大神

仏堂の趣きを残す安産祈願の神社



▲安産大神



▲向拝の彫物

安産大神は府馬地区の鎮守愛宕神社の裏手参道の中腹にあり、安産祈願の神社として地域の信仰を集めています。江戸時代には愛宕神社の別当寺であった愛宕山正法院地藏寺の仏堂でしたが、神仏分離により明治4年(1871)に安産大神と改称されました。祭神は木花開耶姫です。

例祭日は2月11日、この日は安産講の女性たちによる代参が行われています。建立は安永3年(1774)

とも伝わります。建物規模は、梁間二間、桁行三間、入母屋造りで向拝正面に唐破風が付きます。堂周りの丸柱十本および向拝の角柱はすべて檜材を用いています。かつては茅葺屋根でしたが、平成6年に銅板葺きに改修されました。正面中央には両開きの棧唐戸、その両脇には火灯笼が施され、四周には擬宝珠高欄付きの縁が巡らせてあります。屋根の下の垂木は二軒の

繁垂木、組物は二手先の出組で、尾垂木が張り出しています。また、円柱の上には獅子頭の木鼻が据えられています。よく見ると支輪や垂木の間、組物の隙間の壁などに朱がかすかに残ることから、かつては全体が朱で彩られていたのかもしれない。

正面向拝にある彫刻もこの建物の大きな特徴の一つです。破風下には大きく羽を広げた鳳凰と、その下、向拝正面には大小の竜が配された「子引竜」の彫物があり、また向拝柱に渡してある水引虹梁の左右の木鼻にも竜が配されています。

彫物裏にある板片の刻銘から、彫物の作者は古内村の鈴木多門豊賢で、嘉永3年(1850)10月に在郷の女人中により寄付されたものとわかります。

昭和48年8月20日に市文化財に指定されました。

※建物は個人の敷地内にあり、女性が安産を祈願するところでもあるので、見学などは十分ご配慮ください